

「築地地区まちづくり事業」審査委員会（第9回）

日 時：令和6年4月12日（金）～17日（水）各回約1時間

場 所：持ち回り開催

出 席：全委員（9名）

1. 議事

（1）提案審査について

【審査結果（案）について】

（事務局より説明）

委 員： 現実にやってきたことを、皆さんが納得されるような形になった。

委 員： 評価の点数、定量化したものを出すことは結果的に良いと思う。「厳格に審査」より「丁寧に審査」のほうが良いと思う。

委 員： 従って、いろいろ付帯意見を付けることになった。提案者の提案内容だけでは十分でないところを、認識してリクエストしていることが、分かりやすくなったので良いと思う。

委 員： 文化を生み出し育てていくという点について、「不十分」と表現するとよいのでは。

委 員： 豊洲の千客万来との違い、築地の独自性が、この表現の中で伝わるかどうか。

例えば、子ども食堂ではないが、お金があまりない人でも楽しめる、豊洲と被らないように、お金持ちの人も、そうでない人も楽しめる、食に対して、よりインクルーシブな空間であるとか、柔らかい表現のほうが良い。

委 員： 場外市場との関係をどうするか。場外との関係は必要なので、その辺が読み取れる内容にすべきである。

委 員： 「厳格な審査」という言葉は他で使っているか、少し気になる。より厳しくというよりも正確、適切に行ったということ。丁寧にやった結果、課題が浮き彫りになった印象を持っている。

委 員： 今回のプロポーザルについては提案までの期間もなく、100%のものを出して、そこから変わらないということではなく、今後更なる検討を積み重ねて、良くなっていく、そんなプロジェクトだと思う。ブラッシュアップといわれると何を言っているのか、日本語じゃないのでわからない。

委 員： 19ha 規模の再開発が、あくまで日本でどれ位あるか。筑波、けいはんな、うめきたなど、30年かけて街が出来上がるもの。プロポーザルなので事業者の能力を審査している。

委 員： 地下鉄と高速がまだ決まっていない中で提案しているので、もともと難しい面がある。そのことに触れたほうがフェアかもしれない。

委員： 附帯意見について、①のところ、育てる、醸成などを追加したことが反映されているか。

事務局： 附帯意見には今のところ反映していない。先ほどの委員の意見も踏まえ、検討する。

委員： 文化のところは、これまでの意見を取り入れて「醸成」がいいかなと思った。

提案者のヒアリングを聞くと、長期間にわたって、あそこの地域を変えていく、建物を整備して終わりではなく、長い時間かけて地域の文化を醸成していくことが求められているのに提案の中では読み取れなかった。

委員： 文化を育てるとするのは私にはあまりピンとこない。大きなものを新しく造れということではない。「醸成」のほうがピッタリくる。

委員： ③東京の水辺の玄関口、「日本らしさ」を感じさせるアイコンよりも、「東京らしさ」のほうがよい。日本だと文化を理解するには大きすぎて表層的になりがちである。「東京らしさを感じさせるアイコンとして認知され、長らく愛されるデザイン」というのを入れてほしい。

事務局： 日本と東京の併記も検討したい。アイコンについては、附帯意見だけにとどまらず、事業予定者と密にコミュニケーションをとって、体制を組んで取組の方向を議論し整理していきたい。

委員： ここの部分は、事業者はもちろん、都民に対するメッセージになるので検討してほしい。

委員： 単純に70年間貸し出しますよというのではなく、70年間愛され続けて、人の心に、この街はこういう街だというのが言われるような、継続性が表現されているとよい。「長らく」がピンとこないなら「愛され続ける」が良いのではと思った。

委員： 太陽光パネルは、今は新しいアイコンだが、将来処理する時のことも社会的な話題になっているので、確かにそこはセンシティブにならざるを得ない。「愛着」という言葉のほうが、もしかしたら親和性が高いのかなと思った。新しさはあるけれど 長い期間、東京らしさ、都民が自分たちの街としても「愛着」を持てる。

(事務局より)

審査結果(案)については、いただいたご意見を踏まえ修正し、結果を送付する。その後、東京都で決定手続きを経て、事業予定者を決定、公表する。

時期については、今のところ、5月上旬と公表しているが、公表の際には委員の皆様にも、お知らせしていく。

(委員より異議なし。)

(終了)